

川井 伸一



愛知大学学長・理事長

佐藤元彦前学長・理事長の任期満了に伴う学長選挙の結果、11月15日付で学長・理事長に就任した。

川井伸一学長・理事長は1951年5月、東京都八王子市生まれ。1975年東京大学教養学部国際関係論分科卒業、東京大学大学院社会学研究科国際関係論専攻修士課程修了、同博士課程単位修得退学。日本学術振興会奨励研究員、日本国際問題研究所研究員などを経て、1992年に愛知大学経営学部助教、1999

5年に同教授、2009年に経営学部部長に就任。2011年に副学長（経営担当）となる。

専門は国際経営論、中国経営論で、『中国企業改革の研究』（中央経済社、1996年）、『中国上場企業——内部者支配のガバナンス』（創土社、2003年）、『中国多国籍企業の海外経営』（編者、日本評論社、2013年）などの著書がある。アジア政経学会、アジア経営学会、中国経済学会、中国経営学会などの理事を歴任した。

愛知大学は名古屋（笹島）、豊橋、名古屋（車道）の3キャンパス・8学部体制で、現代中国学部、地域政策学部といった全国的にも特徴ある学部を擁する。国際的視野と教養を身に付けた人材の育成と地域社会・文化への貢献が建学の精神であり、それらを踏まえて論理的な思考力・表現力を基本にした教育の質の一層の向上を目指している。

山口 政俊



福岡大学学長

衛藤卓也前学長の任期満了に伴い、2015年12月1日付で、山口政俊薬学部教授が学長に就任した。

山口新学長は、1948年福岡県生まれ。1971年九州大学薬学部卒業、1978年九州大学大学院薬学研究科博士課程満期退学。1979年薬学博士。1983年に福岡大学薬学部助教、1990年から同学部教授。2007年から2011年まで薬学部長（2期）、学校法人福岡大学理事、同評議員を歴任。なお、

1987年4月から1年間、オランダ大学医学部に留学。

専門は薬品分析学。2010年に日本分析化学会学会賞、2012年に日本私立薬科大学協会教育賞を受賞。日本分析化学会会員、日本薬学会会員、化学物質評価研究機構評議員・理事、薬学教育評価機構総合評価評議員を務めている。

福岡大学は、9学部・大学院10研究科と2つの病院を擁する地域の教育研究・医療の拠点として発展し、西日本において確固たる地位を築いてきた。この他に2つの附属高校、1つの附属中学校を有している。

新学長は、本学のこれまでの実績を踏まえながら、大学を取り巻くさまざまな課題を解決するため、建学の精神の一つである「積極進取」の下で「アクティブ福岡大学」を掲げ、リーダーシップを発揮し、職責を果たしたいと所信を示した。

K・J・シャフナー 西南学院大学学長。米国サウスウエスタン・バプテスト神学大学院修士課程修了。'87 西南学院大学文学部講師、同大学国際文化学部教授を経て、'14より現職。

清家篤 慶應義塾長、本連盟会長。'78 慶應義塾大学経済学部卒業。博士(商学)。労働経済学専攻。主著『雇用再生——持続可能な働き方を考える』他。

松本宣郎 東北学院大学学長。東京大学文学部卒、同大学院西洋史学修士課程修了。同大学助手、東北大学教授などを経て、'13より現職。専門は古代ローマ史。文学博士。

難波功士 関西学院大学社会学部教授。東京大学大学院社会学研究科修士課程修了。専門は広告史、若者文化史、メディア史など。主著『就活』の社会史、『大二病』ほか。

横山千晶 慶應義塾大学法学部教授、初年次教育学会理事。同大学文学研究科博士単位取得退学。専門は19世紀イギリス文学、文化。編著『O・ヘンリー「最後の一片」』ほか。

安藏伸治 明治大学付属明治高等学校・中学校校長。明治大学政治経済学部教授。'85 南カリフォルニア大学大学院社会学研究科博士課程修了 (Ph.D.)。日本人口学会前会長。

清水正之 聖学院大学学長。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。専門は倫理学、日本倫理思想史。主著『日本思想全史』、『国学の他者像——誠実と虚偽』ほか。

音好宏 上智大学文学部教授。'90 上智大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。メディア専攻。主著『放送メディアの現代的展開』ほか。

渡辺茂寛 日本経済新聞社日経カレッジカフェ副編集長兼日経HR日経就職ナビ編集長。桜美林大学大学院アドミニストレーション研究科非常勤講師。

北城恪太郎 国際基督教大学理事長。'72 カリフォルニア大学大学院(バークレー校)修士課程修了。現在、日本アイ・ビー・エム(株)相談役・経済同友会終身幹事。

高木孝子 ノートルダム清心女子大学学長。アメリカ・カトリック大学大学院神学研究科博士後期課程修了。博士 (Ph.D.、神学)。ノートルダム清心女子大学教授を経て'01より現職。

前田信彦 立命館大学産業社会学部教授、キャリア教育センター長。上智大学大学院博士後期課程単位取得退学。博士(社会学)。主著『仕事と生活——労働社会の変容』など。

中村朝夫 芝浦工業大学工学部教授。博士(工学)。東京工業大学などを経て、'05より芝浦工業大学教員(専門は化学)。'15よりキャリアサポートセンター長。

水谷誠 学校法人同志社理事長。'13より現職。同志社大学大学院神学研究科博士課程(前期課程)修了。同志社大学神学部教授。専門は、宗教学(キリスト教神学)、思想史、哲学。

大橋敏子 神戸大学大学院国際協力研究科博士課程修了。学術博士。主著『外国人留学生のメンタルヘルスと危機介入』(京都大学学術出版会)。現在、京都大学医学研究科に在籍。

佐々木清子 上智大学カウンセリングセンター
カウンセラー。Teachers College, Columbia
University 修士課程修了。国際基督教大学修
士課程修了。臨床心理士、大学カウンセラー。

飯野公一 早稲田大学国際学術院（国際教養
学部・国際コミュニケーション研究科）教授、
同大学留学センター所長。Ph.D.（ペンシルベ
ニア大学）、専門は社会言語学。

信田グレチエン 国際大学学生センター事務
室長。

宮澤節生 青山学院大学法務研究科教授。
イェール大学社会学科博士課程修了。法学博士、
Ph.D.。アメリカ法社会学会国際賞、アメリカ
犯罪学会国際犯罪学部門最優秀図書賞を受賞。

穂田里香 東海大学健康科学部准教授。06よ
り現職。イッキ飲み防止連絡協議会専門委員
など。主著『人権視点に立ったアルコール依
存症者へのソーシャルワーク実践』。

中村哲之 東洋学園大学人間科学部専任講
師。09京都大学大学院文学研究科博士後期課
程修了。博士（文学）。千葉大学を経て、14よ
り現職。主著『動物の錯視』など。

倉沢新一 関東学院大学栄養学部長、教授。79
筑波大学大学院農学研究科修了。農学博士。
関東学院女子短期大学を経て、15より現職。
主著『食物繊維』など。

小松修 日本大学広報部大学史編纂課嘱
託。87日本大学大学院文学研究科博士後期課
程満期退学。日本大学助手、非常勤講師を經
て、99より現職。

藤原美紀 学校法人梅花学園法人事務局兼梅
花女子大学企画部長。梅花女子大学文学部卒。

石井研士 國學院大學神道文化学部教授、副
学長。85東京大学人文科学研究所宗教学・宗
教史学専攻博士課程単位取得退学。博士（宗
教学）。02より現職。主著『銀座の神々』など。

三上 延 武蔵大学人文学部社会学科卒。高
校時代から小説家を目指し、古書店勤務など
を経て、2002年『ダーク・バイオレット』
でデビュー。2011年の古書ミステリー『ビ
ブリア古書堂の事件手帖』が人気となり、『ビ
ブリア古書堂の事件手帖4』が日本推理作家
協会賞長編および連作短編集部門にノミネー
トされる。

山岡三子 フリーアナウンサー。学習院大学
卒。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究
科博士後期課程修了。博士（社会デザイン
学）。名古屋短期大学客員教授。



〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

● 11月10日(火) 第8回常務理事会
に出席

● 11月17日(火) 第7回理事会、第
2回秋季総会に出席

● 11月18日(水) 全私学連合「私学
振興協議会」に出席

清家篤全私学連合代表(当連盟
会長)から①平成28年度私立大学
関係政府予算および税制改正に関
する要望②私立学校施設の耐震化
の推進に関する要望③私立学校の
激甚災害法における局地激甚災害
指定の改善に関する要望——など
について説明があり、実現へ支援
を要請した。

特に私立大学等経常費補助にお
いては、国私間格差が是正されな
いままに減額されている実態の説
明とともに、学校施設の耐震化に
おいても、国公立と私立との間で
格差が生じていることを踏まえ、
平成28年度予算はもとより、平成
27年度補正予算において確保を強
く要望した。

また、安全対策のための激甚災
害指定時の取り扱いについて、国
公立学校の措置と遜色のないよう、
局地激甚災害指定の補助適用とす
るなど、特段の配慮をお願いした。

● 11月18日(水) 馳文部科学大臣、
麻生財務大臣へ、「平成28年度私立
大学関係政府予算拡充および税制
改正」を要望

● 11月24日(火) 日本私立大学団体
連合会等「私立大学振興大会20
15」に出席(詳細は129頁参照)

● 12月8日(火) 第9回常務理事会
に出席

● 12月14日(月) 文教関係主要国会
議員へ、「平成28年度私立大学関係
政府予算拡充および税制改正」を
要望



開催報告

● 11月19日(木)・20日(金)
「学生支援研究会」開催

49の加盟大学から94名の参加を
得て、「諸環境の変化と多様な学生
支援」をテーマに開催。

『学生生活白書2015』から読
み取る学生実態、給付奨学金制度
の創設要望、SNSに関するアン
ケート結果、大学生の自死を巡る
問題、就職・採用活動時期の後ろ
倒しに関する動きなどについて委
員から課題提起があった後、多様
な学生への支援はどうあるべきか
について①キャリア形成・就職活
動支援②経済支援③多様な学生支
援と課外活動支援④学生相談——
この4つのテーマ別に分かれて意
見交換を行った。

● 11月27日(金)・28日(土)
「財務・人事担当理事者会議」
第2回全体会議」開催

「経営財務戦略と学生への経済的
支援」持続的な奨学金政策の策定
をテーマに開催。学生に対す

る奨学金などの経済的支援がますます重要な役割を持つようになっており、それらの支援をより「戦略的」に活用することが、これからの大学の財務に必要な視点であるとの認識のもと、51の会員法人から69名の参加により、意見交換および情報共有を行った。

● 本連盟学生委員会奨学金等分科
会「平成27年度懇談会」開催

「平成27年度懇談会」開催

国の奨学事業の充実改善に資するため、平成16年度から年に2回開催してきた懇談会を、2015年度は7月29日(第1回)、12月14日(第2回)に開催した。

第1回では奨学金制度の運用、事務手続きにおける大学側の悩みや課題などについて意見交換をするとともに、給付奨学金の創設を強く要望した。

第2回では、第1回に続く意見交換とともに、情報公開資料の充実、各種奨学金制度の利用手続きの円滑化について要望した。



奇数月20日（年6回）刊行

●WEBサイトにて、全文無料公開中

※第344号（2012年5月発行）から

詳細は

<http://www.shidairen.or.jp/activities/daigakujihou>



第362号（2015年5月発行）

【特集】

大学新生の「トモダチ作り」を考える



【座談会】

大学の普遍性と地域に根差す大学の溢れる魅力

【小特集】

大学・高等学校教育改革のこれから～高大接続改革実行プランをふまえて

【インタビュー】

菊永 英里氏
(株式会社 Chrysmela
代表取締役)

第363号（2015年7月発行）

【特集】

**わが国における「ユニバーサル化」
—— 社会人学生の現在地から ——**



【座談会】

戦後70年の私立大学の歴史、果たしてきた役割を振り返る——教育、研究、社会貢献、機会均等の観点から

【小特集】

日本全体に活力を生み出す私立大学の地方創生

【インタビュー】

茂木 友三郎氏
(キッコマン株式会社
取締役名誉会長)

第364号（2015年9月発行）

【特集】

特徴ある正課外教育で学生を教育する



【座談会】

4年制私立大学における看護師養成の未来

【小特集】

エコキャンパスの今

【特別連載】

高校は今～これからの高大接続・連携を考える〈横浜市編〉

【インタビュー】

廣田 遥氏
(アテネ・北京オリンピック
トランポリン日本代表、阪南大学
職員)

第365号（2015年11月発行）

【特別原稿】【座談会】

『第14回学生生活実態調査』から読み解く現代学生像とこれからの学生支援



【小特集】

大学における防災訓練

【インタビュー】

重た みゆき氏
(印象評論家、インプレッション
トレーナー®)

座談会 「大学図書館はこれからどうなるのか？」

特集 「少人数教育の効果と課題」

表紙・大学点描 共立女子大学

だいがくのたから 青山学院大学

加盟校の幸福度ランキングアップ ミネラルウォーター編

編集後記

◆この特集が発行される頃は、いよいよ本格的な就職活動に向けて学生・企業ともに緊張感が高まっていることだろう。2年続けての日程変更に関して、学生や企業に加え、大学からも多様な声が上がっている。この日程変更の問題を機に、大学の受け止め方もまた一様ではないことが浮き彫りとなった。▼毎年のようにメディアで大学の就職特集が生まれ、受験生が大学選びに就職データを求めるなど、今や「就職・キャリア」は大学経営に影響を及ぼす要素の一つとなった。それに呼応するように各大学は就職・キャリアへの取り組みを強化している。▼日程変更に対する大学の反応の裏には「就職・キャリア」に対する各大学の考え方やスタンスの違いがあるのではないかと考え、今回は企業、地域、規模、理系など異なる立場からご寄稿いただいた。揺れる現実の真つただ中での特集となり、大変執筆しにくいテーマであったに違いない。ご寄稿いただいた方々には心よりお礼を申し上げます。▼日程に関する解は見えないが、今こそ大学と企業双方が率直

に意見を交わし、未来を見据えて検討努力することが必要なのではないだろうか。(広報・情報部門会談(大学時報)委員・早稲田大学キャリアセンター長 佐々木ひとみ)

◆異なる文化や習慣の中に折り込まれてストレスを感じない人は少ないであろう。留学すれば、勉強に忙しいだけでなく、慣れない環境の中で生活をしていかなければならぬし、考え方の違う他国の人々に囲まれてさまざまな衝突に耐えなければならぬ。自分は強い人間だと思っても、やはり精神的に不安定になることは避けられない。そんなときは避けられなかったり援助を申し出てくれる人々は、本当にありがたい存在である。

また、交換留学生を増やしたり留学を義務化する大学も昨今多くなってきたが、送り出す学生のメンタル面の支援を留学先の大学に任せっぱなしにしていいのだろうか。個人情報との兼ね合いもあるが、必要な情報は留学先の大学と共有し、学生が留学の目的を果たせるよう、十分な準備と支援が必要である。受立派な制度も必要だが、受け入れ派遣の学生双方に「いつでも支えているよ」と安心

感を与えることが重要なのではないかと思う。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・上智大学学術情報局長 大日方聖信)

お詫びと訂正

365号「大学点描(福岡女学院看護大学)の「新棟完成イメージ」にかかる写真」につきまして、本文とは関係のない文字を掲載してしまいました。

ここに事務局よりお詫びを申し上げますとともに、再発防止に努める所存でありますことをご報告申し上げます。なお、WEBに掲載しておりますPDF版につきましては、訂正したものを掲載させていただきます。ご報告申し上げます。

私大公式Facebookページ

私大連盟では、公式Facebookページ (<http://www.facebook.com/shidaren>) を開設しています。

次号「大学時報」の進捗報告や「私立イベントフォーラム」などの無料イベントに関するご案内など、ここでしか見られない情報も発信しています。ぜひ、ご覧ください。

